

明けましておめでとうございます。コロナ禍で迎える正月も3回目になりました。今年こそ、よい年になりますように。年末にNHK Eテレの100分de名著の中井久夫スペシャルという番組を見ました。中井久夫さんは、神戸大学の元精神科教授で昨年8月に逝去されました。常に患者さんに寄り添い、多くの著作を残されました。「戦争と平和 ある観察」という著書で、戦争と平和について考察されています。その中の一説に『戦争が「過程」であるのに対して平和は無際限に続く有為転変の「状態」である。だから、非常にわかりにくく、目にみえにくく、心に訴える力が弱い。』『「安全保障感」希求は平和維持のほうを選ぶと思われるだろうか。そうとは限らない。まさに「安全の脅威」こそ戦争準備を強力に訴えるスローガンである』とある。今の私たちは平和を希求しながら、戦争へ向かっているのではないだろうか？すぐそこに戦争の足音が聞こえているように思うのは私だけだろうか？

### [最近目立つ病気]

胃腸炎が流行しています。ロタウイルスもあり、おそらくノロウイルスもあるのでしょうか。入院になるかどうかの重症感がないと検査はしません。検査をしても特別な薬はありませんし、重症者は入院して持続点滴をするしかないのですから。RSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症は時々見られますが、一時ほどの勢いはなくなりました。溶連菌感染症やアデノウイルス感染症も時々見られます。突発性発疹症は1年を通じてコンスタントに見られています。

そしていよいよ、インフルエンザの流行が始まりました。A型インフルエンザがあちこちでみられています。冬休み明けには大流行になる恐れがあります。過去2シーズンはインフルエンザの流行が起らず、集団免疫は低下しているものと思われる。大流行にならなければよいのですが。新型コロナウイルス感染症は高止まりの状態です。小児科領域ではそれほど重症感はありません。むしろ、インフルエンザの方がはるかに脅威です。行動制限がなくなりましたが、3密を避け、手洗励行、マスク着用を守っていただきたいです。インフルエンザは過去2年間の経験から飛沫接触感染を防げば流行が起らないことは証明されています。エアロゾル感染をする新型コロナウイルス感染症はそれでも流行を防げませんが、せめてインフルエンザの大流行だけは避けたいです。

### [感染性胃腸炎]

細菌又はウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はウイルス感染（ロタウイルス、ノロウイルスなど）が多く、毎年秋から冬にかけて流行します。また、エンテロウイルス、アデノウイルスによるものや細菌性のものもみられます。

乳幼児に好発し、1歳以下の乳児は症状の進行が早いです。主症状は嘔吐と下痢であり、種々の程度の脱水、電解質喪失症状、全身症状が加わります。嘔吐又は下痢のみの場合

や、嘔吐の後に下痢がみられる場合と様々で、症状の程度にも個人差があります。37～38℃の発熱がみられることもあります。年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられます。

### [インフルエンザ]

過去2シーズン流行がみられなかったため、インフルエンザについて説明します。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられます。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もあります。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続きますが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴です。通常は1週間前後の経過で軽快します。

例年のインフルエンザは、全国の定点当たり報告数が1.00以上（通常の流行開始の指標）となる11月末から12月にかけて流行が開始し、ピークは1月末から2月上旬が多いです。予防策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要です。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等については、インフルエンザの症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の工夫が重要です。



### [新型コロナウイルス感染症]

新型コロナウイルスについて、政府内では、感染症法上、季節性インフルエンザ

と同じ「5類」への引き下げを早ければ今年春にも行う案も出ていて、感染状況も見極め丁寧に検討する方針です。新型コロナは、感染症法で「2類相当」に位置づけられ、厳しい措置を取れることになっていますが、政府は、社会経済活動への影響も考慮し、位置づけの見直しを議論しています。オミクロン株が主流となって以降、死亡する人の割合が下がっていることなども踏まえ、早ければ今年春にも、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」へ引き下げる案も出ています。

ただ、厚生労働省の専門家会合では、まだその条件を満たしていないという指摘も出ていて、政府は、今後の感染状況も見極めつつ、丁寧に検討を進める方針です。

一方、感染症法上で「5類」に位置づけられると、検査や入院などには原則、患者の自己負担が生じますが、日本医師会からは「新型コロナは位置づけを引き下げても公費負担は残すべきだ」という意見も出ていて、負担の在り方も協議される見通しです。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター（Tel:222-0099）では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は3/17の予定です。なお2/5は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院のHp（<https://kabata-cl.jp>）から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約ができますので是非ご利用ください。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

